

りそな外為レポート

りそな WEEKLY COLUMN

りそな外為レポート

～バイ・ザ・ルーマー、セル・ザ・ファクト～(P2)

りそな銀行 市場トレーディング室
カスタマーディーラー 中里 信介

今週のドル円予想レンジ **103.20 ～ 104.50**

りそなWEEKLY COLUMN

リモートワーク実際にやってみました (P3)

埼玉りそな銀行 資金証券部
川目 司

- りそなグループに於ける、リモートワーク取り組み例の紹介
- 実際に取り組んだ上で感じた、メリット・デメリット
- リモートワークは、アフターコロナの世界を見据えた働き方

◎注意事項

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願いいたします。

2021/1/18

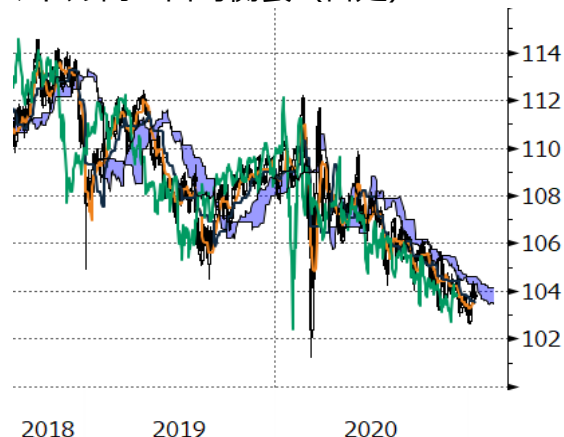
りそな外為レポート

バイ・ザ・ルーマー、セル・ザ・ファクト

今週のドル円予想レンジ **103.20 ~ 104.50**

(りそな銀行市場トレーディング室予想 発行当日の10時時点)

◆ドル円一目均衡表（日足）



◆為替相場のすすめ

先週はバイデン次期政権による、追加経済対策の規模拡大と時期前倒しへの期待感からドル買いが入ったものの持続せず、ドル円相場は動きの鈍い展開となった。大規模な金融緩和が続く米国では、足元の金融環境や経済指標を受け、資産買い入れ縮小へ向けた議論が進むのでは？と“噂”されていた。これを受け、米債利回りの上昇やドルインデックスの上昇が見られていたものの、FED高官が相次いでこれを否定したほか、週後半の指標は予想比悪化するという“事実”が出てくるに連れてやや沈静化した。マーケットは投資の格言「バイ・ザ・ルーマー、セル・ザ・ファクト(噂で買って事実で売る)」を実現したと言えるだろう。

足元では、材料出尽くし感に伴い踊り場相場になりつつあるが、今週20日には、いよいよバイデン氏が大統領就任式を迎える予定となっている。また、今週は日銀、ECB、来週はFOMCと中央銀行イベントが控えている。さらに、依然としてコロナウイルスの拡大は収まるところを知らない。これらのイベントが、再び“期待”を醸成し、マーケットを動かすのか？要注目となる。(カスタマーディーラー 中里信介)

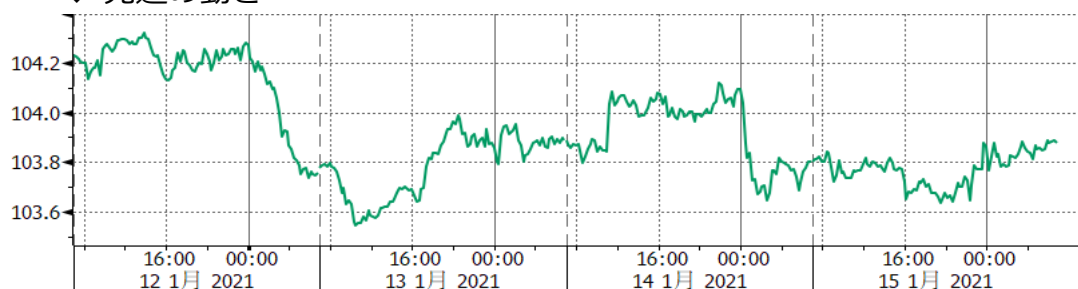
◆ 今週の日程

18日(月) 日 通常国会召集	21日(木) 日 日銀金融政策決定会合
18日(月) 中 20/4Q GDP	21日(木) 欧 ECB理事会(結果発表)
20日(水) 米 20年国債入札	21日(木) 米 12月住宅着工・許可件数
20日(水) 米 大統領就任式	22日(金) 日 12月CPI
21日(木) 日 12月貿易統計	22日(金) 米 1月PMI

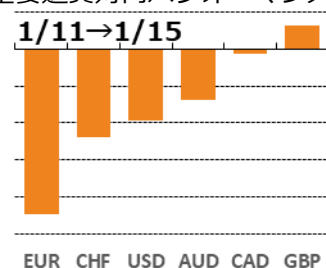
◆ 今週の予想 (ドル高 強い↑ 普通↑ ドル安 強い↓ 普通↓) NY引け値 1月15日(金) 103.85円 VS 1月22日(金)

東京										大阪			埼玉			
井口	中根	石川	湊	小新	田中	中里	伊藤	村永	小林	鈴木	武富	上野	小林	津田	石井	佐藤
↑	休	↓	↓	↓	↓	↑	休	↑	↓	↓	休	↓	↑	↑	↑	↑

◆ 先週の動き



主要通貨対円パフォーマンス



出所：Bloomberg

◎注意事項

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。

2021/1/18

りそな WEEKLY COLUMN

リモートワーク実際にやってみました

- りそなグループに於ける、リモートワーク取り組み例の紹介
- 実際に取り組んだ上で感じた、メリット・デメリット
- リモートワークは、アフターコロナの世界を見据えた働き方

埼玉りそな銀行 資金証券部
川目 司

はじめに

新型コロナ禍に於いて、様々な業種・業態でリモートワークの浸透が進んでいる。かく言う弊社も、コロナ感染拡大への対応策として、テレワークやスプリットオペレーション導入に舵を切っている。

導入実施について耳にした当初は、「果たして実際上手く運用出来るのだろうか」と思う気持ちが強かった。というのも、私自身学生時代のアルバイトから現在に至るまで、「定められた勤務地以外の場所」、ましてや自宅で仕事をするという経験がなかったからだ。この文章を目にする方も、そういった方が多いと思う(もし違ったらすみません)

私が所属するグループで、現在主に取り組んでいるのは、「スプリットオペレーション」と呼ばれるものである。スプリットオペレーションとは、「人員を2つ以上のチームに分け、それぞれが別拠点にて業務を行う」というものである。弊社市場部門は、通常木場(東京都)が主要拠点であるが、コロナ禍に於いて、交代制で北浦和(埼玉県)での勤務も行っている。このように木場と北浦和オフィスの人員を明確に分けることで、万が一木場のオフィスでパンデミックが起きた場合に、北浦和オフィスで即時業務を代替することが可能となっている。

本格的にリモートワークが始まって、まだ日が浅いものの、実際に経験してみて自分自身が感じたメリット・デメリットを以下に書いていく。

メリット

① 通勤時間の短縮

これについては人によりけりだが(リモートワーク勤務地によっては長くなってしまうこともあるし)、筆者自身は恩恵を強く受けている。筆者は埼玉県在住であり、北浦和勤務となったことで、通勤時間が格段に削減した。現状在宅勤務の経験はないのだが、仮に在宅勤務となった場合、通勤時間がゼロとなる。これまで、「通勤時間」というものを働く上で所与のものとしていた筆者にとって、中々イメージし辛い世界である。しかし乍ら、朝晩の満員電車通勤がなくなることを勘案すれば、ストレスフリーこの上ないことは間違いなさだろう。

勤務地がショートタームで変わるというのも、働く上で良い気分転換になっている。リモートワーク導入以前は、基本的には人事異動のタイミングでしか勤務地が変わらなかったが、現在は木場⇄北浦和と勤務地が変則的だ。「今週は木場、来週は北浦和」と働く場所が変わることで、通勤そのものにメリハリがつけられていると感じる。

◎注意事項

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。

りそな WEEKLY COLUMN

② 業務の効率化

リモートワーク導入・進捗に際し、従前業務の見直しや効率化検討が行われた。その一例として、ペーパーレス・印鑑レスが挙げられる。紙での回覧物は電子回覧に切り替わり、それに伴い押印作業も縮小している。私の所属するグループは、紙での回覧物が非常に多かったのだが、「印刷→押印→回覧→綴り」の作業が減ったことで、他の業務に回せる時間が増えた(なくなってから実感したのですが、「印刷→押印→回覧→綴り」の作業は地味にしんどかったです)。

日次で行う事務作業についても、作業工程の簡略化や、Excelマクロを活用した作業の自動化を行うことで、(徐々にではあるが)効率化に取り組んでいる。事務作業に費やしていた時間が減ったことで、市場取引や相場分析に割ける時間が増えたのが、私個人の印象である。

デメリット

① 対面コミュニケーションの希薄化

分散勤務をすることで、実際に顔を合わせてのコミュニケーションがなくなった。やり取りはメールや電話が中心である。Zoomを用いてのミーティングはあるが、常時つけっぱなしとはいかず。上司や同僚の顔を見る機会は減ってしまったのは、少し寂しく思われる。

また、お客様や社外の人物(証券会社・短資会社)の顔が見えないのは、仕事をする上でやり辛さを少なからず感じる要素かもしれない。

② 設備面・セキュリティ面

労働設備の面では、完全に賄えているとは言えない。セキュリティやシステムの都合上、どうしても木場から動かせない設備も残っている(設備そのものが大型であったり、専用回線・端末を使用している為)。この点については、現在弊社内部でも対応を順次行っている様子である。リモートワーク体制進捗により、今後改善されていくものと考えている。

なお、在宅勤務時には、テレワーク端末として専用のラップトップが貸与されている。この端末を用いることで、書類作成や報告・起案業務は、問題なく行えている。

アフターコロナの働き方

コロナ収束以降も、リモートワークという労働スタイルは残るものとする。しかし、その置かれる重点は変わるのではないかと。今般のリモートワーク拡充は、「感染症対策」を発端とするものであった。しかし、今後は「従業員の働き方改革」の側面を強めるのではないかと。従業員にとっては、個人の時間確保に繋がるし、企業側としても交通費負担削減といったメリットを残す。

なお、私自身、100%リモートワークシフトが望ましいとまでは考えない。どうしても、本来の勤務地でないとセキュリティやシステムの都合上扱えない業務もあるし、人によっては在宅の環境が労働に適さない場合もある。「概ね何とかなるけど、辛い所に手が届かない」感じがある。しかし乍ら、ワークライフバランスの充実や生産性向上の面から考えると、通常の勤務体系にリモートワークを織り交ぜる働き方は、今後更に盛り上がっていくものと予想される。

